

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、宗江寺町・屋瀬町とあり。元祿三年の火災記にも、宗江寺町・矢瀬町・矢後上^ケ地町と載せたり。今此の町名絶えたりしゆゑ、其の地詳かならず。

○屋後上地町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、古餌指町・屋後上^上地町とあり。元祿三年の火災記には、矢瀬町の次に矢後上^上地町と載せたり。此の町名も今絶えたりし故に、其の地詳かならず。

○屋後與助傳

元和二年の土帳に、半役衆二百石屋後與助、また大筒打百石屋後治右衛門といふも見ゆ、寛永四年の土帳には、御馬廻二百石屋後與助・御傍衆二百石御鐵炮爲磨奉行屋後次右衛門とありて、其の後兩人共子孫絶えたるか、寛文元年以後の土帳には屋後氏の人見ゆ。按ずるに、屋後上^上地町は屋後與助の邸地なるを、斷絶の後地子地となして、上^上地町と呼びたるなるべし。屋後氏は屋代氏と同氏にて、ヤシロと呼びたるにや。

○淵上町

此の町名は、元祿九年の地子町肝煎裁許附にも、國事昌披問答金澤町名附にも記載せず。若しくは龜淵町をば、後に淵上町と改稱せしにや。三州志來因概覽附録に載せたる、享和三年幕府進達郷庄分町名附にも、堀川龜淵町は小名となしたれど、淵上町は記載せず。

○淵上町長壽人

文化七年九十歳扶持書上帳に、堀川淵上町越中屋與右衛門後家たよとありて、此の女は享保六年の生にて、文化七年九十歳におよび、藩侯より養老扶持米を賜はり、天保九年六月十六日百十八歳にて歿せり。按ずるに、舊藩中加越能三州の高壽人を考ふるに、能登國鳳至郡浦上村善通寺隱居祐正は、慶長五年の生にて、享保七年百十三歳に及びたるよし、可觀小説に見ゆ。是三ヶ國中にての高壽人也。又金澤木新保荒町梅村宗榮は、元和元年の生にて、享保十六年十一月百十七歳にて歿す。然るに此の淵上町のたよは百十八歳なれば、金澤にて高壽人の隨一といふべし。おもふに堀川邊にも此の外長壽人多し。本堀川町淺野屋吉郎兵衛が後家そよ、文化三年より養老扶持賜はり、同十三年四月百

歳にて歿す。新堀川町宮腰屋市右衛門、文化四年より養老扶持賜はり、文政元年四月百一歳にて歿す。同町多葉粉屋善右衛門母、文化五年より扶持賜はり、文政元年六月百歳にて歿す。同町越中屋四郎兵衛後家つる、文化六年より扶持賜はり、文政二年正月百歳にて歿す。堀川川除町鹿嶋寺屋右兵衛後家方店借千木屋市郎右衛門母つき、文化八年より扶持賜はり、文政四年五月百歳にて歿したるなど、皆是なり。

○堀川片原町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、堀川片原町・龜淵町と並べ載せたり。元祿三年の火災記にも、堀川町・堀川片原町とあり。

○堀川川除町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、堀川々除町・堀川片原町と並べ載せたり。元祿三年の火災記に、堀川川除町内九十八軒焼失とあり。此の町は、淺野川の川除にて川縁なり。右兩町名今は廢して、堀川町へ屬せり。

○太巖寺前

舊藩中は太巖寺の門前地なり。故に太巖寺前と呼べり。明治廢藩の後、門前地の名稱を廢し、今は堀川角場町と呼べり。

○道廣山太巖寺

曹洞宗也。貞享二年由來書に云ふ。當寺開基、慶安二年大音主馬實父前田修理、法名太巖院殿有庵宗無居士爲菩提建立。故に太巖寺と號し、大音氏代々檀越也と。開祖は傑外雲英和尚。寛文十三年二月廿七日遷化也。

○開基太巖院殿傳

青地禮幹撰の本藩略譜に云ふ。藩祖高德公三男知好、稱修理。嘗爲僧、住石動山。後還俗、賜播磨守利好舊領采地一萬三千七百七十石。居能州七尾城。元和二年辭祿。隱栖城州鞍馬山。或云。微妙公大坂兩度之役、使知好皆陣後軍。知好知其少已也。憤志去國。或云。微妙公之待知好。違先君之遺命。故辭祿也。寛永三年十月。微妙公使大和守利孝召還之。翌年自鞍馬赴江州今津病。五年六月廿三日卒于京師。號太巖院。遂不復歸國。有三男四女。長男好次。生于能州。幼名御六。長稱左衛門。爲大音主馬厚甫養子。冒姓